

令和8年度

# 好学通信 (シラバス)

1年生 (64期生)

三綱領・五科目

敬愛 好学 自主

志操は高く品格ある青年生徒になり  
易らにたず学道に専心せよ  
共励切磋和して同するたがひ  
自主自律責任と定意せよ  
積極敢活自ら運命を開拓せよ



鹿児島県立鹿児島中央高等学校

教科名	科目名	単位数	履修形態	授業形態	履修年次	教科書(発行所)	副教材・発展学習教材(発行所)
国語	現代の国語	2	共通	一斉	1	増補新版 現代の国語 (数研出版)	新版意味から学ぶ類出漢字3000 (第一学習社)

目標	生涯にわたる社会生活に必要な国語を的確に理解し効果的に表現する資質・能力を育成し、他者との関わりの中で伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力を伸ばし、心情を豊かにし、言語感覚を磨き、言語文化に対する理解を深め、国語を尊重してその向上を図る態度を育てる。						
学習計画	学習時期	学習内容			学習のねらい		考查等
	4月～6月	①	ささやかな日常(平川克実)	言葉が持つ価値と、言葉の使い手である自身について認識を深め、個人の創造性や自主自律の精神を理解する。		①前期中間考查	
			水の東西(山崎正和)	東西の対比関係を用いながら、日本の水文化に見られる特徴について論じる叙述の方法を把握する。 東西対比の根拠となるそれぞれの情報を展開の中心に置き、評論を粘り強く読み、学習課題に沿って論理の展開を分析する。			
	6月～8月	②	命は誰のものなのか(柳澤桂子)	命は自分のものか否かという正解のない問題について思考し、生命倫理について考察を深め、対比関係によって筆者の主張を読み取る。		②前期末考查	
			コミュニケーションの手段を考える	プレゼンテーションやディベート、討論等をとおして、工夫した表現ができるようになる。(探究Iとの関連)			
	8月～10月	③	『羅生門』の最後の一文(半沢幹一)	作品の多様な見方を学び、豊かな情操や創造性を培い、表現や構成の手法を学びながら文章を書く活動を通して論理の展開を理解する。		10月実力考查	
			ものとことば(鈴木孝夫)	具体(例示)と抽象(意見)の関係を整理して論理構成を把握し、筆者が主張する言語の性質を理解する。 文章の効果的な接続のしかたを理解する。			
			ズームアップ	言葉の特徴や使い方を知り、テーマに沿った自分の考えを発表する。			
	10月～12月	④	「歴史を学ぶ」ということ(成田龍一)	歴史を学ぶことに関する文章の読解を通して、自らの属する伝統や文化への理解を深め、他国や国際社会の現在と未来について考察する。		③④後期中間考查	
			複数の資料を読み比べて考えをまとめる	文章に含まれている情報を相互に関連づけながら、内容を解釈する方法を学ぶ。			
	12月～3月	⑤	科学と非科学(中屋敷均)	科学と非科学について述べた文章を用いて批判的読解を試みることにより、主体的に文章を読み、自身の考えを論理的に表現する力を身に付ける。		1月実力考查	
			テーマを決めて話し合おう	推論の仕方を理解し、論点を共有して考えを広げたり深めたりしながら話し合いの仕方や結論の出し方を工夫している。			
未来世代への脅威(戸谷洋志)			地球環境の保全における重要な問題点について、自身の生活と具体的に関連付けて筆者の主張を読み取る。				
資料を分析して考えをまとめる			実社会にある素材を用いて、相手や目的に応じた文章を書いたり、資料を的確に分析したりする活動を通して、主体的に社会に参画する態度をもつ。				
定期考查	出題方針	授業で取り扱った教材(教科書)の学習内容の理解度を計る。また、休日課題の問題集から出題し、日頃の学習の成果を問う。					
	予定範囲	前期中間	上記「学習内容」の①の範囲、休日課題の問題集、漢字				
		前期末	上記「学習内容」の②の範囲、休日課題の問題集、漢字				
		後期中間	上記「学習内容」の③・④の範囲、休日課題の問題集、漢字				
	学年末	上記「学習内容」の⑤の範囲、休日課題の問題集、漢字					
実力考查	出題方針	主に実力問題と休日課題から出題する。					
		10月	休日課題の問題集、漢字 + 実力問題				
		1月	休日課題の問題集、漢字 + 実力問題				
観点別評価	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度		
内容	実社会に必要な国語の知識や技能を身に付け、理解している。		論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができる。		言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとしている。		
評価基準	定期考查 課題(問題集)		定期考查 ペアワーク等 課題(問題集)		ペアワーク等 課題(問題集・作文等) 小テスト・リフレクションシート		
	A: 十分満足できる		A: 十分満足できる		A: 十分満足できる		
	B: 概ね満足できる		B: 概ね満足できる		B: 概ね満足できる		
	C: 努力を要する		C: 努力を要する		C: 努力を要する		
学習の手引き	(1)予習…必ず語句の意味調べをする。 (2)授業…予習をもとに、自分が分からないことは特に重点的に聞くこと。板書や全訳の丸写しではなく、考えて読み、聞き書く姿勢を持つこと。疑問が解決しなかったら、その日の内に調べたり、質問したりして解決すること。 (3)復習…その日の授業の復習は、その日の内に10分でも時間をとって、確実にすること。小テストへの準備もすること。 (4)試験…ひとつひとつの試験に対して、日頃の取り組みと試験前の対策をしっかりと臨むこと。						

教科名	科目名	単位数	履修形態	授業形態	履修年次	教科書(発行所)	副教材・発展学習教材(発行所)
国語	言語文化	3	共通	一斉 少人数	1	改訂版 高等学校 言語文化 (数研出版)	学ぶぞ古文と漢文(尚文出版)

学習計画	目標	国語を的確に理解し効果的に表現する資質・能力を育成し、他者との関わりの中で伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力を伸ばし、心情を豊かにし、言語感覚を磨き、言語文化に対する理解を深め、国語を尊重してその向上を図る態度を育てる。					
	学習時期	学習内容			学習のねらい		考查等
	4月～6月	①	古 古文の世界を楽しむ 『宇治拾遺物語』『児のそら寝』 「検非違使忠明のこと」	歴史的仮名遣いや古文の語彙・文法の基本を学び、古文に親しむ。 説話文学に親しみ、古文読解の基礎力を養う。		①前期中間考查	
		漢	日本語の中に生きる漢文 入門一・二	訓読のまきまりを理解し、文章の内容を的確に読み取る。			
	6月～8月	②	漢 故事と成語「漁夫之利」 和歌による心の交流 『伊勢物語』『東下り』 現代にも生きる教え 『徒然草』『丹波に出雲といふ所あり』	格言や故事成語を読んで、漢文の世界に親しむ。 歌物語に描かれた人物、情景、心情などを表現に即して読み取る。 想像力をはたらかせながら、歌物語の世界を読み味わう。 作者の考えを叙述に即して的確に読み取る。 随筆に表れた作者の考えを踏まえて、ものの見方、感じ方、考え方を豊かにする。		②前期末考查	
		現	受け継がれる古文 羅生門(芥川龍之介)	下人の行動や心理をもとに場面の展開を捉え、下人の心理的变化について自分の意見や考えを論述する。 比喩などの修辞を理解する。			
	8月～10月	③	漢 読み継がれる歴史 「先從隗始」 古 仮名日記文学の原点 『土佐日記』『門出』『帰京』 平安宮廷文学の世界 『枕草子』『雪のいと高う降りたるを』	史話に描かれた情景や人物の心情などを、表現に即して読み味わう。 作品の内容や形態に応じた表現の特色に注意して読む。 作品に表れた作者の考えを踏まえて、ものの見方、感じ方、考え方を豊かにする。		10月実力考查	
	10月～12月	④	漢 漢詩のこぼれ「静夜思」「山行」「登高」 古 戦乱下の人間像 『平家物語』『木曾の最期』 和歌を味わう 『万葉集』『古今和歌集』『新古今和歌集』	漢詩のまきまりと表現の特色について学び、漢詩の世界に親しむ。 作品に描かれた人物、情景、心情などを表現に即して読み取る。 表現の特色に注意して和歌を読む。 和歌に表れたものの見方、感じ方に触れる。			③④ 後期中間考查
	12月～3月	⑤	漢 論語とその注釈 『論語』 古 古典の詩歌 『奥の細道』『旅立ち』『平泉』 漢 論説の文章『雑説』	孔子や孟子が理想としたものは何かを考える。 構成や展開を確かめながら文章を読み取る。 作品に込められた作者の思いを感じ取る。 唐代の論説の特徴を読み解き、構成上の効果や文章全体の展開について考える。		1月実力考查	
		⑥	現 言語活動 詩歌のアンソロジーを編む	詩歌を音読し、主題を考えて鑑賞する。			⑤学年末考查
定期考查	出題方針	授業で取り扱った教材(教科書)の学習内容の理解度を計る。また、休日課題の問題集から出題し、日頃の学習の成果を問う。					
	予定範囲	前期中間	上記「学習内容」の①の範囲、休日課題の問題集、古典文法				
		前期末	上記「学習内容」の②の範囲、休日課題の問題集、古典文法				
		後期中間	上記「学習内容」の③・④の範囲、休日課題の問題集、古典文法				
学年末	上記「学習内容」の⑤の範囲、休日課題の問題集、古典文法						
実力考查	出題方針	主に実力問題と休日課題から出題する。					
		10月	休日課題の問題集、古典文法 + 実力問題				
		1月	休日課題の問題集、古典文法 + 実力問題				
観点別評価		知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度	
内容		国語を通して、実社会に必要な知識や技能を身につけており、言語文化に親しみ、理解している。		論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしようとしている。		言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、言語感覚を磨き、言葉を通して他者や社会に関わろうとしている。	
評価基準		定期考查 宿題(問題集)		定期考查 ペアワーク等 宿題(問題集)		ペアワーク等 宿題(問題集・作文等)	
		A:十分満足できる B:概ね満足できる C:努力を要する		A:十分満足できる B:概ね満足できる C:努力を要する		A:十分満足できる B:概ね満足できる C:努力を要する	
学習の手引き		(1)予習…必ず語句の意味調べと全訳をする。 (2)授業…予習をもとに、自分が分からないことは特に重点的に聞くこと。板書や全訳の丸写しではなく、考えて読み、聞き書き姿勢を持つこと。疑問が解決しなかったら、その日の内に調べたり、質問したりして解決すること。 (3)復習…その日の授業の復習は、その日の内に10分でも時間をとって、確実にすること。小テストへの準備もすること。 (4)試験…ひとつひとつの試験に対して、日頃の取り組みと試験前の対策をしっかりとって臨むこと。					

教科名	科目名	単位数	履修形態	授業形態	履修年次	教科書(発行所)	副教材・発展学習教材(発行所)
地理 歴史	地理 総合	2	共通	一斉	1	『高等学校 新地理総合』(帝国書院) 『新詳高等地図』(帝国書院)	『新詳地理資料 COMPLETE』(帝国書院) 『サクシード地理』(啓隆社)

目標	社会的な事象の地理的な見方・考え方を働かせ、課題を追及したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指す。							
学習計画	学習時期	学習内容	学習のねらい				考査等	
	4月	第1部 地図でとらえる世界 第1章 地図と地理情報システム	【知識・技能】(7) 方位や時差、日本の位置と領域、国内や国家間の結びつきなどについて理解する。(4) 地図や地理情報システムの役割や有用性などについて理解する。(7) 現代世界の様々な地理情報について、地図や地理情報システムなどを用いて、その情報を収集し、読み取り、まとめる基礎的・基本的な技能を身に付ける。【思考力、判断力、表現力】(7) 現代世界の地域構成について、位置や範囲などに着目して、主題を設定し、世界的視野から見た日本の位置、国内や国家間の結びつきなどを多面的・多角的に考察し、表現する。(4) 地図や地理情報システムについて、位置や範囲、縮尺などに着目して、目的や用途、内容、適切な活用の仕方などを多面的・多角的に考察し、表現する。				前期中間考査	
	5月	第2章 結びつきを深める現代世界						
	6月	第2部 国際理解と国際協力 第1章 生活文化の多様性と国際理解	【知識】(7) 人々の生活文化が地理的環境から影響を受けたり、影響を与えたりして多様性をもつことや、地理的環境の変化によって変容することなどについて理解する。(4) 自他の文化を尊重し国際理解を図ることの重要性などについて理解する。【思考力、判断力、表現力】(7) 世界の人の生活文化について、その生活文化が見られる場所の特徴や自然及び社会的条件との関わりなどに着目して、主題を設定し、多様性や変容の要因などを多面的・多角的に考察し、表現する。					
	7月	第2章 地球的課題と国際協力	【知識】(7) 地球的課題の各地で共通する傾向性や課題相互の関連性などについて大観し理解する。(4) 地球的課題の解決には持続可能な社会の実現を目指した各国の取組や国際協力が必要であることなどについて理解する。【思考力、判断力、表現力】(7) 世界各地で見られる地球環境問題、資源・エネルギー問題、人口・食料問題及び居住・都市問題などの地球的課題について、地域の結びつきや持続可能な社会づくりなどに着目して、主題を設定し、現状や要因、解決の方向性などを多面的・多角的に考察し、表現する。					
	8月	第3部 持続可能な地域づくりと私たち 第1章 自然環境と防災 1節 日本の自然環境 2節 地震・津波と防災 3節 火山災害と防災 4節 気象災害と防災 5節 自然災害への備え	【知識及び技能】(7) 地域の自然環境の特色と自然災害への備えや対応との関わりとともに、自然災害の規模や頻度、地域性を踏まえた備えや対応の重要性などについて理解する。(4) 様々な自然災害に対応したハザードマップや新旧地形図をはじめとする各種の地理情報について、その情報を収集し、読み取り、まとめる地理的スキルを身に付ける。【思考力、判断力、表現力】(7) 地域性を踏まえた防災について、自然及び社会的条件との関わり、地域の共通点や差異、持続可能な地域づくりなどに着目して、主題を設定し、自然災害への備えや対応などを多面的・多角的に考察し、表現する。					前期期末考査
	9月							10月実力考査
	10月							
	11月							
	12月	第2章 生活圏の調査と地域の展望	【知識】(7) 地理的な課題の解決に向けた取組や探究する手法などについて理解する。【思考力、判断力、表現力】(7) 生活圏の地理的な課題について、生活圏内や生活圏外との結びつき、地域の成り立ちや変容、持続可能な地域づくりなどに着目して、主題を設定し、課題解決に求められる取組などを多面的・多角的に考察、構想し、表現する。				後期中間考査	
	1月						1月実力考査	
	2月						学年末考査	
3月								
定期考査	出題方針	・授業、教科書、その他課題などから出題する。 ・100満点 50分間の試験						
	予定範囲	前期中間	第1部 第1章 地図と地理情報システム 第2章 結びつきを深める現代世界					
		前期末	第2部 第1章 生活文化の多様性と国際理解 第2章 地球的課題と国際協力					
		後期中間	第3部 第1章 自然環境と防災					
学年末	第3部 第2章 生活圏の調査と地域の展望							
観点別評価		知識・技能	思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度			
内容	地理に関わる諸事象に関して、生活文化の多様性や、防災、地域や地球的課題への取組などを理解するとともに、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けている。		地理に関わる事象について、多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を獲得している。		地理的にかかわる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度で取り組んでいる。			
評価基準	定期考査、授業での活動や各種課題の取り組み		定期考査、授業での活動や各種課題の取り組み		定期考査における主体的な学習態度を測る問いへの記述や、授業でのグループ活動や各種課題の取り組み			
	A：十分満足できる B：概ね満足できる C：努力を要する		A：十分満足できる B：概ね満足できる C：努力を要する		A：十分満足できる B：概ね満足できる C：努力を要する			
学習の手引き	①自宅では…【予習】教科書を読んで、学習内容を確認。【復習】オリジナルの学習ノートを作成し、学習内容を自分なりにまとめてみる。 ①授業では…他の生徒と意見を出し合ったり、要点をまとめ、それを発表したりする活動を通じて理解を深める。 ③日常的に…ニュースを見たり、新聞を読んだりする習慣を身につけて、自分の身の回りの出来事などに関心や疑問を持つようにする。							

教科名	科目名	単位数	履修形態	授業形態	履修年次	教科書(発行人)	副教材・発展学習教材(発行人)
地理 歴史	歴史 総合	2	共通	一斉	1	『明解 歴史総合』(帝国書院)	『新詳 歴史総合』(浜島書店) 『新 歴史総合要点ノート』(啓隆社) 『新 歴史総合研究ノート』(啓隆社)

目標	社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家および社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指す。			
学習計画	学習時期	学習内容	学習のねらい	考查等
	4月	1部 歴史の扉 1章 歴史と私たち 2章 歴史の特質と資料	【知識・技能】(ア) 私たちの生活や身近な地域などに見られる諸事象を基に、それらが日本や日本周辺の地域及び世界の歴史とつながっていることを理解すること。(イ) 資料に基づいて歴史が叙述されていることを理解すること。【思考力、判断力、表現力】(ア) 近代化、国際秩序の変化や大衆化、グローバル化などの歴史の変化と関わらせて、アで取り上げる諸事象と日本や日本周辺の地域及び世界の歴史との関連性について考察し、表現すること。(イ) 複数の資料の関係や異同に着目して、資料から読み取った情報の意味や意義、特色などを考察し、表現すること。	前期中間 前期末 10月 後期 学年末
		5月	2部 近代化と私たち 1章 「近代化」への問い 2章 江戸時代の日本と結びつく世界	
	6月		3章 欧米諸国で生まれる国民国家 4章 産業革命による欧米とアジアの変化 5章 日本における近代国家の形成 6章 帝国主義の影響と日本を含めたアジアの変化 7章 「近代化」を振り返り現代的な諸課題と結びつけて考えてみよう	
		7月	3部 国際秩序の変化や大衆化と私たち 1章 「国際秩序の変化や大衆化」への問い 2章 第一次世界大戦とその影響 3章 大衆社会の形成と社会運動	
	8月		4章 揺らぐ国際秩序と日本の行方 5章 第二次世界大戦とその影響 6章 「国際秩序の変化や大衆化」を振り返り現代的な諸課題と結びつけて考えてみよう	
		9月	4部 グローバル化と私たち 1章 「グローバル化」への問い 2章 冷戦で揺れる世界と日本 3章 多様化する世界	
	10月		4章 グローバル化のなかの世界と日本 5章 「グローバル化」を振り返り現代的な諸課題と結びつけて考えてみよう	
		11月	4部 グローバル化のなかの世界と日本 5章 「グローバル化」を振り返り現代的な諸課題と結びつけて考えてみよう	
	12月		4部 グローバル化のなかの世界と日本 5章 「グローバル化」を振り返り現代的な諸課題と結びつけて考えてみよう	
		1月	4部 グローバル化のなかの世界と日本 5章 「グローバル化」を振り返り現代的な諸課題と結びつけて考えてみよう	
	2月		4部 グローバル化のなかの世界と日本 5章 「グローバル化」を振り返り現代的な諸課題と結びつけて考えてみよう	
3月		4部 グローバル化のなかの世界と日本 5章 「グローバル化」を振り返り現代的な諸課題と結びつけて考えてみよう	【知識・技能】(ア) 石油危機、アジアの諸地域の経済発展、市場開放と経済の自由化、情報通信技術の発展などを基に、市場経済の変容と課題を理解すること。(イ) 冷戦の終結、民主化の進展、地域統合の拡大と変容、地域紛争の拡散とそれへの対応などを基に、冷戦終結後の国際政治の変容と課題を理解すること。(ウ) 歴史的経緯を踏まえて、現代的な諸課題を理解すること。【思考力、判断力、表現力】(ア) 市場経済のグローバル化の特徴と日本の役割などを多面的・多角的に考察し、表現すること。(イ) 冷戦終結後の国際政治の特徴と日本の役割などを多面的・多角的に考察し、表現すること。(ウ) 日本とその他の国や地域の動向を比較し相互に関連付けたり、現代的な諸課題を展望したりするなどして、主題について多面的・多角的に考察し、表現すること。	
	定期考查	出題方針	*授業、教科書、その他課題などから出題する。 *100満点 50分間の試験	
予定範囲		前期中間	1部 歴史の扉 2部 近代化と私たち	
		前期末	3部 国際秩序の変化や大衆化と私たち 1章~3章	
		後期中間	3部 国際秩序の変化や大衆化と私たち 4章~6章 4部 グローバル化と私たち 1章~2章	
学年末	4部 グローバル化と私たち 3章~5章			
観点別評価	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
内容	近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、広く相互的な視野から捉え、近現代の歴史を理解するとともに、諸資料から様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けている。	近現代の歴史の変化に関わる事象の意味や意義、特色などを多面的・多角的に考察したり、課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力が養われている。	よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとする態度であるとともに、日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深めようとしている。	
評価基準	定期考查、授業での活動や各種課題の取り組み	定期考查、授業での活動や各種課題の取り組み	定期考查における主体的な学習態度を測る問いへの記述や、授業でのグループ活動や各種課題の取り組み	
	A：十分満足できる B：概ね満足できる C：努力を要する	A：十分満足できる B：概ね満足できる C：努力を要する	A：十分満足できる B：概ね満足できる C：努力を要する	
学習の手引き	(1) 予習…教科書を熟読し、「新歴史総合要点ノート」の穴埋めを完成させる。 (2) 授業…授業中は集中して説明事項の内容を理解し、生徒同士で内容を説明したり、まとめたりする能力を身に付ける。 (3) 復習…「新歴史総合研究ノート」を活用して、知識の整理と定着を図る。			

教科名	科目名	単位数	履修形態	授業形態	履修年次	教科書(発行所)	副教材・発展学習教材(発行所)
数学	数学Ⅰ 数学Ⅱ	2 1	共通	一斉	1	新編 数学Ⅰ (数研出版) 新編 数学Ⅱ (数研出版)	類比方式による数学Ⅰ・Ⅱ (九州数学教育会)
目標	数学の学習を通し、数量や図形に対する感覚を磨くと同時に、論理的な考え方や本質を把握する判断力、および自分が考えた事を的確に表現する力を養成する。						
学習計画	学習時期	学習内容				学習のねらい	考查等
	4月(10)	数学Ⅰ 第1章 数と式 第1節 式の計算 第2節 実数 第3節 1次不等式	<ul style="list-style-type: none"> <li>・整式に関する用語、複雑な式の展開および因数分解を学習する。また、今後の基礎的な知識となる実数の分類を学習する。</li> <li>・方程式・不等式についての基本的な性質を理解し、絶対値記号を含む方程式、不等式を解くことができるようにする。また、2次方程式の実数解に着目し、その個数について調べることができるようにする。</li> </ul>			第1回実力考查 (新入生テスト)	
	5月(12)						
	6月(14)	第2章 集合と命題 第3章 2次関数	<ul style="list-style-type: none"> <li>・集合の表し方・記号・用語の意味を理解し、適切に使えるようになる。</li> <li>・関数の概念を理解する。また関数のグラフを描くことによって関数の変化の具体的な様子をつかむことができるようにする。</li> <li>・因数分解の公式などを使い、2次方程式の解を求めることができる。</li> <li>・2次不等式の解の意味を理解し、その解を求めることができる。また、連立不等式を解くことができる。</li> </ul>			前期中間考查	
	7月(9)	第1節 2次関数とグラフ 第2節 2次関数の値の変化 第3節 2次方程式と2次不等式					
	8月(6)		<ul style="list-style-type: none"> <li>・三角比としての正弦・余弦・正接の意味を理解する。正弦定理・余弦定理を理解し使えるようにする。相似な図形の面積比・体積比を学習する。</li> </ul>			前期末考查	
	9月(9)	第4章 図形と計量 第1節 三角比 第2節 三角形への応用					
	10月(14)		<ul style="list-style-type: none"> <li>・3次式の展開と因数分解を取り扱う。</li> <li>・複素数を導入し、その範囲で方程式を扱う。</li> <li>・剰余の定理や因数定理を理解する。</li> <li>・証明の基本的な方法を学習する。</li> </ul>			第2回実力考查	
	11月(11)	数学Ⅱ 第1章 式と証明 第1節 式と計算 第2節 等式・不等式の証明 第2章 複素数と方程式 第1節 複素数と2次方程式の解 第2節 高次方程式					
	12月(12)		<ul style="list-style-type: none"> <li>・座標や式を用いて直線や円などの基本的な平面図形の性質や関係を数学的に考察し処理するとともに、その有用性を認識し、いろいろな図形の考察に活用できるようにする。</li> </ul>			後期中間考查	
1月(10)	第3章 図形と方程式 第1節 点と直線 第2節 円 第3節 軌跡と領域						
2月(11)		<ul style="list-style-type: none"> <li>・座標や式を用いて直線や円などの基本的な平面図形の性質や関係を数学的に考察し処理するとともに、その有用性を認識し、いろいろな図形の考察に活用できるようにする。</li> </ul>			第3回実力考查		
3月(7)							
定期考查	出題方針	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書の範囲を中心に、問題集および参考書から出題する。</li> <li>・60分100点。</li> </ul>					
	予定範囲	前期中間 第1章 数と式 前期末 第2章 集合と命題 第3章 2次関数 後期中間 第4章 図形と計量 数Ⅱ 第1章 式と証明 学年末 数Ⅱ 第2章 複素数と方程式 第3章 図形と方程式					
実力考查	出題方針	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第1回は中学校内容の復習。第2回、第3回は教科書の内容をふまえて課題から5割、実力問題を5割</li> <li>・第1回は100点。第2回、第3回実力は200点とする。</li> </ul>					
	予定範囲	第1回実力 中学校内容の到達度を測定する内容 第2回実力 夏季課題・秋季課題から5割、実力問題5割(これまでに既習した内容から出題) 第3回実力 冬季課題から5割、実力問題5割(これまでに既習した内容から出題)					
観点別評価	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度		
内容	数と式、図形と計量、2次関数及び、いろいろな式、図形と方程式についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身につけている。		命題の条件や結論に着目し、数や式を多面的にみたり目的に応じて適切に変形したりする力、図形の構成要素間の関係に着目し、図形の性質や計量について論理的に考察し表現する力、関数関係に着目し、事象を的確に表現してその特徴を表、式、グラフを相互に関連付けて考察する力、数の範囲や式の性質に着目し、等式や不等式が成り立つことなどについて論理的に考察する力、座標平面上の図形について構成要素間の関係に着目し、方程式を用いて図形を簡潔・明瞭・的確に表現したり、図形の性質を論理的に考察したりする力を身につけている。		数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を身につけている。		
評価基準	定期考查 提出物の提出状況(夏季・秋季課題、小テスト等)	定期考查 実力考查		授業への取り組み(授業態度、学習活動への参加状況、小テスト等)			
	A: 十分満足できる B: 概ね満足できる C: 努力を要する	A: 十分満足できる B: 概ね満足できる C: 努力を要する		A: 十分満足できる B: 概ね満足できる C: 努力を要する			
学習の手引き	<ul style="list-style-type: none"> <li>○あきらめずに粘り強く考え抜き、「自ら考え、自ら学ぶ」自学力を身につける。</li> <li>○面倒がらずに、自ら実際に計算して確かめる努力が大切である。</li> <li>○予習→授業→復習のサイクルを守るようにする。特に、復習に時間をかけ知識をしっかりと身につける。</li> <li>○授業では、ノートをとって安心しない。話をよく聞いて考え、理解することに集中する。</li> <li>○授業中に理解できなかったことは、その日のうちに質問する。疑問を家に持ち帰らない。</li> </ul>						

教科名	科目名	単位数	履修形態	授業形態	履修年次	教科書(発行所)	副教材・発展学習教材(発行所)
数学	数学A 数学I	1 1	共通	一斉 習熟度	1	新編 数学A (数研出版) 新編 数学I (数研出版)	類比方式による数学 I・A (九州数学教育会)
目標	数学の学習を通し、数量や図形に対する感覚を磨くと同時に、論理的な考え方や本質を把握する判断力、および自分が考えた事を的確に表現する力を養成する。						
学習計画	学習時期	学習内容			学習のねらい		考查等
	4月(5)	数学A 第1章 場合の数と確率	<ul style="list-style-type: none"> <li>集合の意味と記号の使い方を学習し、適切に使えるようにする。順列・組合せの意味と記号を理解し、その数を適切に求められるようにする。</li> <li>試行・事象・確率の意味を理解する。事象の確率についての基本性質について理解し、排反事象、余事象の確率を求められるようにする。独立な試行・期待値について学習する。</li> </ul>		第1回実力考查 (新入生テスト)		
	5月(6)	第1節 場合の数 第2節 確率					
	6月(7)						
	7月(4)	数学I 第5章 データの分析	<ul style="list-style-type: none"> <li>データの特徴や傾向をとらえる為にデータの整理をする。平均値や中央値、最頻値について理解する。</li> <li>データの散らばり具合を偏差、分散、標準偏差を通して理解する。</li> </ul>		前期中間考查  前期末考查  第2回実力考查		
	8月(4)						
	9月(5)						
	10月(7)	数学A 第2章 図形の性質	<ul style="list-style-type: none"> <li>三角形の角の二等分線と比、重心・内心・外心・垂心を理解する。また、内接円、外接円との関係を理解する。円の性質を理解し、円に関するさまざまな定理を学習する。</li> <li>基本的な作図を書けるようにする。</li> <li>中学校において学習した空間における直線や平面の位置関係を踏まえ、三垂線の定理などを扱い、図形の性質を論理的に考察する。</li> </ul>		後期中間考查		
	11月(6)	第1節 平面図形 第2節 空間図形					
	12月(7)						
	1月(5)	数学A 第3章 数学と人間の活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>整数に関する約数や倍数の基本的な用語の意味を理解する。</li> <li>整数の除法の性質に基づいてユークリッドの互除法の仕組みを理解し、それを用いて2つの整数の最大公約数を求めることができる。</li> <li>身近に使用している10進法をもとに数の仕組みを理解し、2進法や3進法などを用いて数を自由に表記できる。また、2進法における加法・減法・乗法などの計算を、10進法と同じように扱うことができる。</li> </ul>		第3回実力考查  学年末考查		
	2月(5)	第1節 整数の性質 第2節 数学と人間の活動					
3月(4)							
定期考查	出題方針	<ul style="list-style-type: none"> <li>教科書の範囲を中心に、問題集および参考書から出題する。</li> <li>60分100点。</li> </ul>					
	予定範囲	前期中間 数A 第1章 場合の数と確率 前期末 数I 第5章 データの分析 後期中間 数A 第2章 図形の性質 学年末 数A 第3章 数学と人間の活動					
実力考查	出題方針	<ul style="list-style-type: none"> <li>第1回は中学校内容の復習。第2回、第3回は教科書の内容をふまえて課題から5割、実力問題を5割</li> <li>第1回は100点。第2回、第3回実力は200点とする。</li> </ul>					
	予定範囲	第1回実力 中学校内容の到達度を測定する内容 第2回実力 夏季課題・秋季課題から5割、実力問題5割(これまでに既習した内容から出題) 第3回実力 冬季課題から5割、実力問題5割(これまでに既習した内容から出題)					
観点別評価	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度		
内容	<p>場合の数と確率、データの分析、図形の性質についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、数学と人間の活動の関係について認識を深め、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身につけている。</p>		<p>不確実な事象に着目し、確率の性質などに基づいて事象の起こりやすさを判断する力、社会の事象などから設定した問題について、データの散らばりや変量間の関係などに着目し、適切な手法を選択して分析を行い、問題を解決したり、解決の過程や結果を批判的に考察し判断したりする力、図形の構成要素間の関係などに着目し、図形の性質を見いだし、論理的に考察する力、数学と人間の活動との関わりに着目し、事象に数学の構造を見いだし、数理的に考察する力を身につけている。</p>		<p>数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善しようとする態度や創造性の基礎を身につけている。</p>		
評価基準	定期考查 提出物の提出状況(夏季・秋季課題、小テスト等)	定期考查 実力考查		授業への取り組み(授業態度、学習活動への参加状況、小テスト等)			
	A: 十分満足できる B: 概ね満足できる C: 努力を要する	A: 十分満足できる B: 概ね満足できる C: 努力を要する		A: 十分満足できる B: 概ね満足できる C: 努力を要する			
学習の手引き	<ul style="list-style-type: none"> <li>○あきらめずに粘り強く考え抜き、「自ら考え、自ら学ぶ」自学力を身につける。</li> <li>○面倒がらずに、自ら実際に計算して確かめる努力が大切である。</li> <li>○予習→授業→復習のサイクルを守るようにする。特に、復習に時間をかけ知識をしっかりと身につける。</li> <li>○授業では、ノートをとって安心しない。話をよく聞いて考え、理解することに集中する。</li> <li>○授業中に理解できなかったことは、その日のうちに質問する。疑問を家に持ち帰らない。</li> </ul>						

教科名	科目名	単位数	履修形態	授業形態	履修年次	教科書（発行所）	副教材・発展学習教材（発行所）
理科	化学基礎	2	必修	一斉	1	化学基礎 (数研出版)	化学基礎研究ノート(博洋社)

**目標**  
 日常生活や社会との関連を図りながら、物質とその変化への関心を高める。  
 目的意識をもって観察・実験などを行い、科学的に探究する能力と態度を培う。  
 化学の基本的な概念や原理・法則を理解し、科学的な見方や考え方を身につける。

学習計画	学習時期	学習内容	学習のねらい	考查等	
	4月	序章 化学の特徴 第1編 物質の構成と化学結合 第1章 物質の構成	<ul style="list-style-type: none"> <li>探究の進め方（課題の発見・探究・解決）について学ぶ。</li> <li>実験を行うための注意事項や基本的な器具の扱い方を学ぶ。</li> </ul>	前期中間考查	
	5月	① 純物質と混合物	<ul style="list-style-type: none"> <li>物質の種類と性質、混合物の分離・精製方法について学ぶ。</li> </ul>		
	6月	② 物質とその成分 ③ 物質の三態と熱運動 第2章 物質の構成粒子 ① 原子とその構造 ② イオン ③ 周期表	<ul style="list-style-type: none"> <li>単体と化合物、同素体、成分元素の検出法について理解を深める。</li> <li>物質の三態と熱運動の関係について理解する。</li> <li>原子の構造、電子配置について学ぶ。</li> <li>イオンの生成過程やイオンの特徴について理解を深める。</li> <li>元素の周期律や周期表について理解する。</li> </ul>		
	7月	第3章 粒子の結合 ① イオン結合とイオン結晶	<ul style="list-style-type: none"> <li>イオン結合の原理や組成式の作り方、結晶について学ぶ。</li> </ul>		
	8月	② 共有結合と分子	<ul style="list-style-type: none"> <li>共有結合の原理や電子式、構造式について学ぶ。</li> </ul>		
	9月	③ 配位結合 ④ 分子間にはたらく力 ⑤ 高分子化合物 ⑥ 共有結合の結晶 ⑦ 金属結合と金属結晶	<ul style="list-style-type: none"> <li>配位結合の原理について学ぶ。</li> <li>分子間にはたらく引力について学ぶ。</li> <li>分子からなる物質の実生活での利用について理解を深める。</li> <li>共有結合の結晶について学ぶ。</li> <li>金属結合の原理や金属結晶の性質について理解を深める。</li> <li>化学結合の違いによる結晶の特徴について理解を深める。</li> </ul>		前期末考查
	10月	第2編 物質の変化 第1章 物質量と化学反応式 ① 原子量・分子量と式量 ② 物質量 ③ 溶液の濃度 ④ 化学反応式と物質量	<ul style="list-style-type: none"> <li>原子量・分子量と式量について学ぶ。</li> <li>化学における粒子の数の取り扱い方について理解する。</li> <li>溶解について学び、様々な濃度の表し方を理解する。</li> <li>化学反応式について学ぶ。</li> <li>化学反応における量的関係について理解を深める。</li> <li>化学の基本法則を学び、様々な現象に当てはめることができる。</li> </ul>		
	11月	第2章 酸と塩基の反応 ① 酸・塩基 ② 水素イオン濃度とpH ③ 中和反応と塩 ④ 中和滴定	<ul style="list-style-type: none"> <li>酸と塩基の定義、分類法を知る。</li> <li>水素イオン濃度とpHの関係を学ぶ。</li> <li>中和反応のしくみや塩の性質について理解を深める。</li> <li>中和反応の量的関係、中和滴定について理解を深める。</li> </ul>		1月実力考查
	12月	第3章 酸化還元反応 ① 酸化と還元 ② 酸化剤と還元剤	<ul style="list-style-type: none"> <li>酸化と還元の定義について理解する。</li> <li>酸化剤、還元剤のはたらきを学ぶ。</li> <li>酸化還元反応における量的関係について理解を深める。</li> <li>金属のイオン化傾向と反応性について特徴を捉える。</li> <li>電池の原理を学び、様々な電池の仕組みを学ぶ。</li> <li>身の周りの金属の製錬方法について理解を深める。</li> </ul>		
	1月	③ 金属の酸化還元反応 ④ 酸化還元反応の利用			学年末考查
	2月				
	3月				

定期考查	出題方針	・教科書の内容を中心に、副教材の問題をふまえて出題 ・100点満点50分のテスト	
	予定範囲	前期中間	イオン結合とイオン結晶まで
		前期末	結晶の比較まで
		後期中間	化学変化における諸法則まで
	学年末	酸化剤と還元剤の反応まで	

実力考查	出題方針	・教科書の内容、副教材から約6割。応用問題を約4割出題する。・100点満点60分のテスト 1月実力 水素イオン濃度とpHまで
------	------	---

観点別評価	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	物質の成り立ちや性質、化学反応について理解し、実験・観察において目的に沿って的確に行うことができる。	物質を定性的・定量的に扱い、考察することができる。具体的な実験を基に物質の性質を理解し、的確に表現することができる。	身近な化学事象への関心を深め進んで理解しようとしている。
	3つの観点について <b>A 十分満足できる</b> それぞれ次のA～C <b>B 概ね満足できる</b> で評価する <b>C 努力を要する</b>	① 授業への取組 ② 定期考查、実力考查の成績 ③ 各種課題への取組	*①～③を総合的に判断する

**学習の手引き**  
 (1) 予習…教科書を読み、次時の学習事項を確認する。  
 (2) 授業…授業が勝負です。予習した学習事項を確認しながら考え、授業に集中することが大切です。授業中理解できなかったことは、その日のうちに質問する。疑問点を家まで持ち帰らない。  
 (3) 復習…授業で理解したことを再認識するために、まとめノートを作成したり、研究ノートを何回も繰り返し学習することで、重要な理論・法則を思い出しながら使え、自分の理解度を深めることができます。

教科名	科目名	単位数	履修形態	授業形態	履修年次	教科書(発行所)	副教材・発展学習教材(発行所)
保健体育	体育	3	共通	種目選択	1	現代高等保健体育(大修館)	アクティブスポーツ(大修館)

目標	1 スポーツについての知識を深めるとともに技能を高め、運動の楽しさや喜びを味わう。 2 自分にあった体力の向上を目指す。 3 スポーツを通して「公正・協力・責任・参画」に対する意欲を高め、自ら健康・安全を確保できるようにする。
----	---

学習計画	学習時期	学習内容		学習のねらい		
	8月 2月	体育理論		●運動、スポーツの効果的な学び方について学習する。 ●前期と後期に分けて学習する。		
年間を通して複数領域から種目を選択して学習する。	4月 8月	体づくり運動		●仲間と積極的に交流するための手軽な運動や规律的な運動を通して、心と体は互いに影響し変化することに気づき、自分の体の調子に応じて体の調子を整えながら「体ほぐしの運動」ができるようになる。 ●ねらいに応じて、健康の保持増進や調和のとれた体力の向上を図るための「体力を高める運動」の計画を立て取り組む。 ●前期と中期に学習する。		
	年間を通して複数領域から種目を選択して学習する。	選択	球技(前期)	ソフトボール	●「ベースボール型」の球技として学習する。 ●安定したバット操作と走塁での攻撃、ボール操作、連携した守備などによって攻防を展開することを学ぶ。	
				ソフトテニス	●「ネット型」の球技として学習する。 ●状況に応じたボール操作や安定したラケットの操作と連携した動きによって空間を作りだすなどの攻防を展開することを学ぶ。	
				バレーボール	●「ネット型」の球技として学習する。 ●役割に応じたボール操作や連携した動きによって空いた場所をめぐる攻防を学ぶ。	
			球技(後期)	水泳	●自分に適した泳法を身につけ、その効率を高めて泳ぐことを学ぶ。 ●記録の向上や水泳の楽しさや喜びを味わいながら泳ぐことを学ぶ。	
				バスケットボール	サッカー	●「ゴール型」の球技として学習する。 ●安定したボール操作と空間を作り出すなどの連携した動きによってゴール前への侵入などから攻防を展開することを学ぶ。
					バドミントン	●「ネット型」の球技として学習する。 ●役割に応じたボール操作や安定したラケットの操作と連携した動きによって空いた場所をめぐる攻防を学ぶ。
				卓球	●「ネット型」の球技として学習する。 ●状況に応じたボール操作や安定したラケットの操作と連携した動きによって空間を作りだすなどの攻防を展開することを学ぶ。	
				ダンス	●創作ダンスでは、表したいテーマにふさわしいイメージをとらえ、個や群で、緩急強弱のある動きや空間の使い方を変化をつけて即興的に表現したり、簡単な作品にまとめたりして踊ることを学ぶ。 ●現代的なリズムのダンスでは、リズムの特徴をとらえ、変化とまとまりをつけて、リズムに乗って全身で踊ることを学ぶ。	
				陸上	●おもに「競走」の長距離走を学習する。 ●目標タイムを達成するペースを自分の技能・体力に合わせて設定し、自分に適したペースを維持して走ることを学ぶ。	

観点別評価	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
内容	運動の合理的、計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに、それらの技能を身につけている。	生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。	生涯にわたって継続して運動に親しむために、運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、お互い協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするとともに、健康と安全を確保している。
評価基準	実技テスト	実技テスト 各種スコアカード・グループ日誌	授業への参加・取り組み状況 各種スコアカード・グループ日誌
	A:十分満足できる B:概ね満足できる C:努力を要する	A:十分満足できる B:概ね満足できる C:努力を要する	A:十分満足できる B:概ね満足できる C:努力を要する

学習の手引き	<ul style="list-style-type: none"> <li>教科書に目を通して、選択種目のルールや練習方法等を確認する。</li> <li>体育は身体を動かすことが大切です。積極的に身体を動かし、分からないことはその場で質問する。</li> </ul>
--------	---



教科名	科目名	単位数	履修形態	授業形態	履修年次	教科書(発行所)	副教材・発展学習教材(発行所)
芸術	音楽 I	2	選択	一斉	1年	高校生の音楽 I (教育芸術社)	適宜プリント等を配布

目標	音楽の幅広い活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と幅広く関わる資質・能力を育成する。						
学習計画	学習時期	学習内容			学習のねらい		備考
	前期	4～5月	のびやかに声をだそう 自分の声を見つけよう 「校歌」「たいせつ」 「翼をください」		・本校の校歌や愛好歌の意味を理解して歌う。 ・中学校で身に付けた発声法を生かして曲に合った表現を方法を考えて歌う。		・実技や作品などの結果だけでなく、そこに至る過程も見取り、「思考力・判断力・表現力」や「主体的に取り組む態度」も評価します。  ・鑑賞では口頭での発表や記述で自分がイメージしたことを伝えてもらい、それらを評価します。
		5～7月	ポディー・パーカッションを楽しもう 「クラッピングカルテット1番」		・リズムアンサンブルを通して、楽譜を読む力を身につける。 ・楽曲の特徴を生かして表現する。		
		7～9月	日本の伝統音楽を鑑賞しよう 能「高砂」 歌舞伎「京鹿子娘道成寺」		・能や歌舞伎の成り立ちや特徴について学習する。 ・鑑賞して感じたことを音楽の見方・考え方を働かせながら文や言葉にして伝える。		
	後期	10～11月	イメージを広げて音楽をつくろう		・旋律と和音、低音の働きを理解し、旋律に合った組み合わせを考える。 ・表現したいイメージに合わせて、速度や楽器の種類などを選択して曲をアレンジする。(リコーダー演奏を含む)		
		11月	オーケストラの作品を鑑賞しよう 「交響曲第9番第4楽章」 「交響詩 魔法使いの弟子」		・様々な楽器の音色や奏法を知り、オーケストラの響きを感じ取る。 ・音楽を形づくる諸要素と関連付けながら音楽の変化に気付き、感じたことを自分の言葉で表現する。		
		12～2月	ヴァイオリンを演奏しよう 「きらきら星」		・ヴァイオリンの仕組みや歴史などを知り、実技活動を通して、奏法や音色の特徴を学習する。		
2～3月		表現を工夫して合唱をしよう 「ふるさと」 「大地讃頌」		・独唱や重唱、合唱など形態に応じた声の出し方を知り、楽曲に合った表現方法を考えて曲を作り上げる。			
定期考查	出題方針	題材の内容に応じて、知識・技能の定着を見るために実技や筆記試験を行います。(授業内で実施)					
	予定範囲	前期	歌唱やアンサンブルの実技				
		後期	作曲 器楽、歌唱の実技				
観点別評価	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度		
目標	・曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解する。 ・創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けるようにする。		・自己のイメージをもって音楽表現を創意工夫することができる。 ・音楽を評価しながらよさや美しさを自ら味わって聴くことができる。		主体的・協働的に音楽の幅広い活動に取り組む。		
評価の観点及びその趣旨	・曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性などについて理解を深めている。 ・創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付け、歌唱、器楽、創作で表している。		音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きを感じながら知覚したことと感受したこととの関わりについて考えどのように表すかについて表現意図をもったり、音楽を評価しながらよさや美しさを自ら味わって聴いたりしている。		音や音楽、音楽文化と豊かに関わり主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。		
評価基準	実技テスト、ワークシート等		実技テスト、ワークシート等		実技活動、ワークシート等		
	実技やワークシートの記入など、評価の対象となるものについて、題材毎に三観点における評価基準を3つ程度(A十分満足できる・B概ね満足できる・C努力を要する)設定し、内容に応じて文言を詳しく提示します。						
学習の手引き	基本的に2時間を通して諸活動を行います。音楽 I では、音楽の見方・考え方を働かせながら様々な音楽を通して学習していきます。						

教科名	科目名	単位数	履修形態	授業形態	履修年次	教科書(発行所)	副教材・発展学習教材(発行所)
芸術	美術Ⅰ	2	選択	一斉	1	新・高校生の美術1(日文)	適宜プリント等を配付

目標	美術の幅広い創造活動を通して、美的体験を豊かにし、生涯にわたり美術を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、創造的な表現と鑑賞の能力を伸ばし、美術文化についての理解を深める。						
学習計画	学習時期	学習内容			学習のねらい		備考
	前期	4月	○オリエンテーション ○私の見つけた風景 (校内散策スケッチ)		美術学習の楽しみ方と心構えについて。 本校の中庭や校舎等の情景をよく見つめ、自分が何に心を動かされ、何を表現したいのかを考えて工夫して表す。		考查等は実施 しませんが、 授業の中で取 り組む態度、 制作のプロセ ス、作品等を 適宜評価しま す。
		5月	創造の扉 デザイン		デザインの目的・造形・働きを考える。 アクリル絵具の特徴と使用方法		
		6月	○デザイン：パッケージデザイン 思わず手に伸びるオリジナルの パッケージデザインを考えて、実 際に色々な物を包んでみよう！		自分の思いを形にする。 独創的な発想とテーマ設定 単純化を工夫する。 配色を工夫する。 自他作品の良さに気づく。		
		7月	○写真表現		夏休みの思い出を複数の写真で表現する。		
		8月	・相互作品鑑賞・発表会		プレゼンテーションしてお互いに鑑賞・評価する。		
	後期	9月	○絵画表現：画家の追憶 ・西洋・日本美術史 ・鑑賞・リサーチ学習		油彩画の時代ごとの流れを理解し、原画や画家について事 前に学習する。 名画を元に作者の制作の工夫を学ぶ。		
		10月	・油彩模写		作品の構図について理解を深める。		
		11月	①作品の選択とデッサン		油絵の基本的な使用法を理解する。		
		12月	②油絵の具の扱い方		原画の持つ形体と色彩に近づく。		
1月		③造形要素の認識		原画の表現技法を探る。			
2月	④マチエールの工夫		作品・作家を追体験する。				
3月	⑤全体感と細部表現		作品の完成				
3月	⑥仕上げ		自他の作品のよさに気づき発表・鑑賞できる。				
3月	○鑑賞		多様な美術作品についての理解を深める。				
観点別評価	知識・技能			思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度	
内容	造形的な見方・考え方を働かせて、造形要素の働きなどについて、創造活動を通じた造形的な視点として実感を伴う理解をしたり、美術作品、文化遺産などについて造形的な特徴から表現の特質を理解したりしている。また意図に応じて造形要素や材料、用具の特性を生かしたり、表現方法を工夫したりして表すなどの創造的な技能を身に付けている。			造形的な見方・考え方を働かせて、主題を生成し、創造的な表現の構想を練っている。また美的体験を豊かにし、美術作品などを様々な観点から鑑賞して、心豊かな生き方に関わる美術の働きや、美術文化を伝統的かつ創造的側面から深く捉え、そのよさや美しさを創造的に味わっている。		造形的な見方・考え方を働かせて、美術の創造活動の喜びを味わい、多様な表現方法や、生活や社会の中の美術の働き及び美術文化と幅広く関わり、主体的に表現や鑑賞の創造活動に取り組もうとしている。	
評価の観点	・対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めている。 ・意図に応じて表現方法を創意工夫し、創造的に表している。			造形的なよさや美しさ、表現の意図と創造的な工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生成し創造的に発想し構想を練ったり、価値意識をもって美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりしている。		主体的に美術の創造的な諸活動に取り組む、自他のよさを認め合いながら、創造の喜びを味わおうとしている。	
評価基準	A：十分満足できる B：概ね満足できる C：努力を要する			A：十分満足できる B：概ね満足できる C：努力を要する		A：十分満足できる B：概ね満足できる C：努力を要する	
	①授業への取り組み(出席状況、授業態度、活動への参加姿勢) ②授業作品の内容(制作意図の理解、感性の表現、創意工夫) ③課題などの提出状況 ①～③の状況から総合的に判断して評価する。						
学習の手引き	①美術を愛好し、表現の主題や形式などに幅広く関心を持つ。 ②意欲的、主体的に活動し、創作活動を楽しむ。 ③基本的な学習マナー(準備と片づけ等)を身につける。						

教科名	科目名	単位数	履修形態	授業形態	履修年次	教科書（発行所）	副教材・発展学習教材（発行所）
芸術	書道 I	2	選択	一斉	1年	書道 I（大修館出版）	適宜プリント等を配布

目標		書道の幅広い活動を通して、生涯にわたり書を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、書写能力の向上を図り、表現と鑑賞の基礎的な能力を伸ばし、書の伝統と文化についての理解を深める。					
学習計画	前期	学習時期	学習内容		学習のねらい		備考
		4月	○オリエンテーション ・用具・用材 ・姿勢・執筆		・執筆法・用筆法や用具・用材について知り、書道の学習における基本的な事項を理解する。		
		5月	○漢字の書 ・書体の変遷		・漢字の成り立ちを理解する ・古典を鑑賞し、作者や時代背景を理解する。		
		6月	①楷書・行書の学習 ・郷土の先人の書		・臨書学習を通し、さまざまな表現を工夫する。		
		7月 8月 9月	○篆刻の学習 ・篆書の学習		・篆書の特徴を理解する。 ・自書自刻の印を作成する。		
	後期	10月	○臨書から創作へ ・漢字の書の制作・鑑賞		・学習した古典に基づき、漢字作品の制作をする。 ・お互いの作品を鑑賞し、理解を深める。		
		11月	○漢字仮名交じりの書の学習 ・意図に応じた表現		・漢字と仮名の調和を考える。 ・題材と自己の表現の工夫をする。		
		12月	・名筆に学ぶ表現の工夫 ・表現と鑑賞		・お互いの作品を鑑賞し、理解を深める。		
		1月	○生活の中の書		・実用書の書き方を学ぶ		
		2月 3月	○仮名の書の学習 ・仮名の成立と発達 ・平仮名・変体仮名・連綿 ・古筆の鑑賞・臨書		・仮名の成立について学ぶ ・仮名の基本的筆遣いを学ぶ。 ・古筆の鑑賞・臨書を通し、繊細な表現ができる。		
観点別評価		知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度	
内容		書の特質に即した見方・考え方を働かせて、表現方法、形式、書表現の多様性を理解している。また、書写能力を向上させるとともに、書の伝統に基づき、作品を効果的に表現させるための基本的な技能を見につけている。		書の特質に即した見方・考え方を働かせて、書のおよさや美しさを感じ自らの意図に基づいて表現を工夫している。また、書の伝統と文化の意味や価値を考え、書のおよさを味わっている。		書の特質に即した見方・考え方を働かせて、書の創造的活動の喜びを味わい、生活や社会の中での文字や書の働き・書の伝統と文化に豊かに関わり、主体的に表現や鑑賞の活動に取り組もうとしている。	
評価の観点		・用具用材の特徴と表現効果の関わりを理解している。 ・古典を理解し、その美しさや良さを味わい、様々な表現形式について理解している。 ・意図に基づいて作品を効果的に表現できる技法を身に付けている。		・古典や書作品から、そのよさを感じ、書体や書風に即した用筆・運筆、字形、全体の構成について構想し工夫している。		・主体的に書の表現及び鑑賞の幅広い活動に取り組もうとしている。	
評価基準		A：十分満足できる B：概ね満足できる C：努力を要する		A：十分満足できる B：概ね満足できる C：努力を要する		A：十分満足できる B：概ね満足できる C：努力を要する	
学習の手引き		①授業への取り組み（出席状況、授業態度、活動への参加姿勢） ②授業作品の内容 ③ワークシートなどの記入・提出状況 ①～③の状況から総合的に判断して評価する。					
学習の手引き		1. 基本的な事項についての学習では、教科書を中心にその理解と把握に努める。 2. 表現の学習では、自ら積極的な姿勢で臨み、表現技法の習得に努める。 3. 鑑賞の学習では、作品を直観的かつ分析的に捉えるように心がけ、書美の追求に努める。					

教科名	科目名	単位数	履修形態	授業形態	履修年次	教科書(発行所)	副教材・発展学習教材(発行所)
外国語	英語 コミュ I	3	共通	一斉	1	New Rays English Communication I (いづな書店)	英単語ターゲット1900 (旺文社)

目標	英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりする基礎的な能力を養う。							
学習計画	学習時期	学習内容				学習のねらい		考查等
	4月	Lesson 1 Follow the Voice of Your Heart				途上国の医療に人生をかける小児外科医の吉岡秀人氏。彼が医師になることを決めたきっかけやマンマーなどで行っている活動について語る。 時制, 基本的な文構造		前期中間考查
	5月	Lesson 2 The Power of Design				文章全体が「デザイン博物館」という設定。スタッフが館内を案内しながら、デザインの魅力、役割、人々に与える影響力や効果などを紹介する。 接続詞, V+O+do[形容詞/分詞]		
	6月	Lesson 3 A Cool Food: Kakigori				インターネット記事、プレゼンテーション、対話からマレーシアと日本のかき氷の共通点と相違点を知り、さらに両者を比較したプレゼンテーション原稿を読む。		
	7月	Lesson 4 OriHime—A Vehicle of Your Heart				吉藤健太郎氏がオリヒメと呼ばれるロボットを開発した理由と、オリヒメによってどのような未来を思い描いているのかを学ぶ。 関係代名詞[制限用法]、過去完了形・過去完了進行形		前期末考查
	8月	Lesson 5 Satoko and Nada				「サトコとナダ」の英訳された漫画を読んだあと、作者であるユベチカさんへのインタビューで作者が漫画に込めた思いを読む。 to不定詞, 動名詞		10月実力考查
	9月	Lesson 6 A Sea of Plastic				プラスチックが発明された背景を理解した上で、現在、環境や生物に与えている深刻な悪影響について紹介。自分たちができる解決策を探る。 分詞の形容詞的用法, 分詞構文		後期中間考查
	10月	Lesson 7 Human Habitation on Mars				宇宙に関するインターネット記事を読み、なぜ人々は火星を目指すのか、そして宇宙開発による恩恵は何かを考える。 助動詞, 関係代名詞[非制限用法]		1月実力考查
	11月	Lesson 8 A Loving Story				1950～60年代のアメリカ合衆国の人権問題について、実話に基づく映画「ラブリング 愛という名前のふたり」のストーリーを通して学ぶ。 関係副詞, 関係代名詞what		
	12月	Lesson 9 Edo, the Resilient City				「火事と喧嘩は江戸の華」のこぼに代表される江戸の庶民の回復力や力強さ、知恵から、自然災害の絶えない現代社会を生き抜く術を学ぶ。 仮定法過去・仮定法過去完了, as if+仮定法		学年末考查
	1月	Lesson 10 A Quality Education for All				教育と貧困の問題は深くかかわっていると指摘する永遠瑠(トワリ)マルイーズ氏へのインタビューを通して、教育や貧困問題の打開策を模索する。 動詞+名詞+that節[wh-節/if節], 強調構文		
定期考查	出題方針	教科書から出題する。						
	予定範囲	前期中間	Heartening English Communication I (L.1,2)					
		前期末	Heartening English Communication I (L.3,4,5)					
		後期中間	Heartening English Communication I (L.6,7)					
	学年末	Heartening English Communication I (L.8,9,10)						
実力考查	出題方針	約100点分は副教材や休日課題などから出題し、残り約100点分は応用問題を出題する。(200満点)						
	予定範囲	10月実力 基本文例600, 英単語ターゲット1900, 休日課題等 1月実力 基本文例600, 英単語ターゲット1900, 休日課題等						
観点別評価	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度			
目標	外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの理解を深めるとともに、これらの知識を聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる技能を身につけるようにする。		コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、英語で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や聞き手の意図などを的確に理解したり、これらを活用して適切に表現したり伝え合ったりする力を養う。		外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。			
評価の観点及びその趣旨	・外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどについて理解を深めている。 ・外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる技能を身につけている。		コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解したり、これらを活用して適切に表現したり伝え合ったりしている。		外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。			
評価基準	定期考查, 単元テスト, パフォーマンステスト等		定期考查, 単元テスト, パフォーマンステスト等		パフォーマンステスト, 小テスト等			
	A: 十分満足できる B: 概ね満足できる C: 努力を要する							
学習の手引き	予習	新出単語・熟語の意味調べ、重要構文や文法事項の確認、本文の内容把握(和訳を含む)						
	授業	予習内容の確認、音読練習、重要構文や文法事項の確認、本文読解						
	復習	授業での学習内容の確認、語彙・構文等の定着、音読練習						

教科名	科目名	単位数	履修形態	授業形態	履修年次	教科書(発行所)	副教材・発展学習教材(発行所)
外国語	論理・表現 I	2	共通	一斉	1	Revised EARTHRISE English Logic and Expression Advanced I (数研出版)	英単語ターゲット1900 (旺文社)

**目標** 英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、事実や意見などを多様な観点から考察し、論理の展開や表現の方法を工夫しながら伝える能力を養う。

学習計画	学習時期	学習内容	学習のねらい	考查等
	4月	Lesson 1 Introduce yourself to your class Lesson 2 How do you spend your weekends?	・自己紹介について。説明する・紹介する【文型】 ・週末の過ごし方について。現在・過去・未来【時制1】	前期中間考查
5月	Lesson 3 Where did you go on vacation? Lesson 4 May I ask you a question?	・旅行について。完了形【時制2】 ・案内・助言について。能力・許可・義務などを表す助動詞【助動詞1】		
6月	Lesson 5 Would you like to come with me? Lesson 6 Something really Japanese	・課外時間・交流について。依頼・勧誘や推量などを表す助動詞【助動詞2】 ・日本文化について。「～される」を表す【受動態】	前期末考查	
7月	Lesson 7 How are you preparing for your future? Lesson 8 Let's enjoy school life!	・ボランティア活動・将来について。「～すること」などを表す【不定詞1】 ・学校生活について。to do / do を使って表す【不定詞2】		
8月	Lesson 9 Are you eco-friendly? Lesson 10 What sports do you like?	・環境問題について。「～すること」を表す【動名詞】 ・スポーツ・健康について。doing / done を使って説明する【分詞1】	10月実力考查	
9月	Lesson 11 Do you use digital devices when you're studying?	・勉強・デジタル機器について。doing / done を使って説明する【分詞2】		
10月	Lesson 12 Recent achievements or advances that have changed the world.	・科学技術・偉業について。人や物について説明する【関係代名詞】	後期中間考查	
11月	Lesson 13 It's time to celebrate!	・文化・歴史について。時や場所などについて説明する【関係副詞】		
12月	Lesson 14 Various countries around the world.	・世界の地理・統計について。比較を表す【比較】	学年末考查	
1月	Lesson 15 What is important to you in life?	・人生・思い出について。仮定を表す【仮定法】		

定期考查	出題方針	教科書から出題する。	
	予定範囲	前期中間	Revised EARTHRISE English Logic and Expression Advanced I (L.1,2,3,4)
		前期末	Revised EARTHRISE English Logic and Expression Advanced I (L.5,6,7,8)
		後期中間	Revised EARTHRISE English Logic and Expression Advanced I (L.9,10,11,12)
学年末	Revised EARTHRISE English Logic and Expression Advanced I (L.13,14,15)		

実力考查	出題方針	約100点分は副教材や休日課題などから出題し、残り約100点分は応用問題を出題する。(200満点)	
	予定範囲	10月実力	基本文例600、英単語ターゲット1900、休日課題
		1月実力	基本文例600、英単語ターゲット1900、休日課題

観点別評価	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
目標	外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの理解を深めるとともに、これらの知識を聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる技能を身につけるようにする。	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、英語で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や聞き手の意図などを的確に理解したり、これらを活用して適切に表現したり伝え合ったりする力を養う。	深みのある題材や多様な活動を通して、発信につながる文法力や発音を磨き、外国語の背景にある文化への理解を深めながら、聞き手・読み手に配慮しつつ、主体的・自律的に外国語でコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。また、授業内外で積極的に発信しようとし、自らの課題を意識しながら英語力の向上に粘り強く取り組む姿勢を育てる。
評価の観点及びその趣旨	・外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどについて理解を深めている。 ・外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる技能を身につけている。	・目的や場面、状況に応じて、日常的・社会的な話題について、情報や考えの要点・詳細、話し手や書き手の意図を的確に理解している。 ・理解した内容を基に、目的や相手に応じて、外国語で情報や考えを適切に表現している。 ・外国語を用いて、情報や考えを伝え合い、相手と円滑にコミュニケーションを図っている。	・外国語で伝え合うことに意欲をもち、授業内外で積極的に学習や発信に取り組んでいる。 ・文法・発音などの力を高めようと、自らの課題を意識しながら主体的に学習を進めている。 ・相手や文化的背景に配慮しながら、外国語を用いてよりよくコミュニケーションを図ろうとしている。
評価基準	定期考查、単元テスト、パフォーマンステスト等 A: 十分満足できる B: 概ね満足できる C: 努力を要する	定期考查、単元テスト、パフォーマンステスト等 A: 十分満足できる B: 概ね満足できる C: 努力を要する	パフォーマンステスト、小テスト等 A: 十分満足できる B: 概ね満足できる C: 努力を要する

学習の手引き	予習 新出単語・熟語の意味調べ、重要構文や文法事項の確認、本文の内容把握(和訳を含む) 授業 予習内容の確認、音読練習、重要構文や文法事項の確認、本文読解 復習 授業での学習内容の確認、語彙・構文等の定着、音読練習
--------	---

教科名	科目名	単位数	履修形態	授業形態	履修年次	教科書(発行所)	副教材・発展学習教材(発行所)
家庭	家庭基礎	2	共通	一斉	1年	図説家庭基礎 (実教出版)	2026最新 生活ハンドブック (第一学習社)

目 標	人の一生と家族・福祉, 衣食住, 消費生活などに関する基礎的・基本的な知識と技術を習得し, 家庭生活の充実向上を図る能力と実践的な態度を養う。						
学習計画	学習時期	学習内容		学習のねらい			考查等
	4月	ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動		・ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動の意義と実施方法について理解する。			被服作品
	4～5月	自分らしい生き方と家族		・生涯発達の観点から今の自分を客観的に見つめ, 職業選択も見通す。			
	6～7月	衣生活をつくる		・衣服の機能や衣服材料の性能などについて理解を深めることにより, 衣服を適切に選択し管理できるよ ・基礎縫いが出来るようになる。			
	8～9月	ホームプロジェクト		・ホームプロジェクトを実施し, 発表する。			前期期末考查
	10～11月	食生活をつくる		・健康で安全な食生活を営むために必要な栄養・食品・調理・食品衛生などについて理解する。 ・調理に関しての基礎的な知識・技術を身につける。 ・食の安全について理解し, 問題意識を持つ。			調理実習(和) 調理実習(洋) 調理実習(中)
	11～12月	子どもとかわる		・子どもの発達・保育・福祉を通して健全な発達を支える親や社会の役割を知るとともに, 保育への関心			学年末考查
	12～2月	高齢者とかわる 社会とかわる		・高齢者の特徴と生活を理解し, 高齢者を支える社会のしくみやあり方について考える。			
	2月	住生活をつくる		・住居の機能を理解し, 健康で安全な住生活やライフスタイルに適した住まいの条件を考える。			
3月	消費行動を考える 経済的に自立する		・様々な消費者問題から, 賢い消費者としてどう行動すべきか考える。 ・自分の目指すライフスタイルを考え, 高校卒業後の生活設計を立てる。				
定期考查	出題方針	教科書, プリント, 実習内容を中心に出题					
	予定範囲	前期中間なし 前期期末 ホームプロジェクトと学校家庭クラブ, 自分らしい生き方と家族, 衣生活をつくる 後期中間なし 学年末 食生活をつくる, 子どもとかわる, 高齢者とかわる, 社会とかわる, 住生活をつくる					
観点別評価	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度		
内容	生活を科学的に理解し, 自立した生活者に必要な知識・技術を身につけている。		家族・家庭や社会における生活の中から問題を見出して課題を設定し, その解決のために生活を科学的に探求し, 生涯を見通して生活を創造している。		自立した生活者に必要な知識・技術を身に付け, 地域社会に参画し, 共に支え合う社会の実現に向けて, 家庭や地域の生活を創造し, 主体的に実践しようとしている。		
評価基準	定期考查 課題 実技	定期考查 課題 実技		定期考查 課題 実技		定期考查 課題 実技	
	A:十分満足できる B:概ね満足できる C:努力を要する	A:十分満足できる B:概ね満足できる C:努力を要する		A:十分満足できる B:概ね満足できる C:努力を要する		A:十分満足できる B:概ね満足できる C:努力を要する	
評 価	観点	①知識・技能…人の一生・生活全般に関する基礎的・基本的な知識を理解し, 技能を身に着けているか。 ②思・判・表…自分の人生やともに生きる人々との生活がよりよいものとなるために思考し, 表現できるか。 ③主体的に学習に取り組む態度…家庭や地域の生活を創造し, 主体的に実践しようとしている。					
	方法	①授業への取り組み(出席状況・授業態度・学習活動への参加状況) ②課題, 作品などの提出状況 ③考查, 実技試験の成績 ①～③を総合的に評価します。					
学習の手引き	高校生として自立を目指して家族・食事・住居・消費行動など様々な側面から生活を観察し, 問題解決能力を身につけられるよう意欲的に授業に取り組みましょう。また, 周囲と協力しながら熱心の実習に取り組みましょう。しかし, 授業はきっかけに過ぎません。真の力をつけるためには, 新聞やニュースにも目を通し, これからの時代をどう生き抜くか考えていかなければなりません。現在の家庭生活を改善するとともに, 将来よりよい家庭生活を築けるようにしましょう。						

教科名	科目名	単位数	履修形態	授業形態	履修年次	教科書(発行所)	副教材・発展学習教材(発行所)
情報	情報I	2	全	一斉	1	情報 I ADVANCED (日本文教出版)	情報 I ADVANCED問題演習 ノート(日本文教出版)

目標	情報に関する科学的な見方・考え方を働かせ、情報技術を活用して問題の発見・解決を行う活動を通して、問題解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用し、情報社会に主体的に参画するするための資質・能力を育成する。						
学習計画	学習時期	学習内容			学習のねらい		考查等
	4月	第1章 情報社会の問題解決	第11章 法の重要性と意義		①情報社会の仕組みや現状、問題点を把握し、関連する情報モラル、法規等について理解することができる。 ②情報社会での個人の役割や責任に対する科学的考察や、ブレインストーミングの活用等によって、情報と情報技術の適切かつ効果的な活用や考察をすることができる。		前期中間考查
	5月	第2章 メディアとコミュニケーション					
	6月	第3章 情報デザイン	第4章 情報のデジタル化		①数や文字、画像や音声などのデジタル表現とその仕組みについて理解する。 ②目的や相手を意識した情報デザインを考え、コンテンツの設計や製作、評価等を行うことができる、 ③コミュニケーションの目的を考え、情報や情報技術を活用した効果的な情報デザインに取り組み、それらを通して、自らの生活や学習に生かすことができる。		前期末考查
	7月						
	8月	第5章3 2進法による計算 4 論理回路					
	9月	第8章 情報通信ネットワーク	第9章 情報システム		①通信の仕組みやデータの分類について正しく理解する。また、データ分析に必要な知識や概念を理解する。 ②計算やグラフの活用によって、データ分析や結果を適切に表現し、評価と改善ができる。 ③仮説検定やテキストマイニングは粘り強い試行錯誤が重要と気づき、継続的な改善を行うことができる。		10月実力考查
	10月						
11月	第10章 データの活用						
12月	第5章1 ハードウェア 2 ソフトウェア	第6章 アルゴリズムとプログラミング 第7章 モデル化とシミュレーション		①アルゴリズム表現、プログラム製作などの知識や技能を身につけることができる。 ②プログラミングや、モデル化とシミュレーションにより目的に応じた問題解決の方法を考えることができる。 ③身近な問題をプログラムや、シミュレーションの結果から評価、改善を行う態度を身につけることができる。		1月実力考查  学年末考查	
1月							
2月							
3月							
定期考查	出題方針	教科書の範囲を中心に、副教材や学習プリントを範囲として出題し、情報Iにおける基礎基本の定着を確認する。また、定着した内容が実際に活用できるかを確認する。(100点満点:50分の予定)					
	予定範囲	前期中間	第1章, 第2章, 第11章における教科書と問題演習ノート(副教材), および関連教材				
		前期末	第3章, 第4章, 第5章の3, 4における教科書と問題演習ノート, および関連教材, 夏季休業中の課題の一部				
		後期中間	第8章, 第9章, 第10章における教科書と問題演習ノート, および関連教材				
学年末	第5章の1, 2, 第6章, 第7章における教科書と問題演習ノート, および関連教材						
実力考查	出題方針	長期休業中の課題の取組具合の確認と、共通テストのような高度な思考力を要する実力問題・応用問題への対処能力を問う(100点満点:60分の予定)					
	予定範囲	10月実力	課題範囲として夏・秋休みの課題から出題。また前期履修範囲における実力問題、応用問題から出題。				
		1月実力	課題範囲として冬休みの課題から出題。また12月までの履修範囲における実力問題、応用問題から出題。				
		実力問題、応用問題は、情報Iと関連性のある検定や共通テストなどの過去問も参考にしながら出題予定					
観点別評価		知識・技能			思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度
内容		効果的なコミュニケーションの実現、コンピュータやデータの活用に理解し、技能を身につけているとともに、情報社会と人とのかかわりについて理解している。 (単元ごとには、上記学習のねらいの①)			事象を情報とその結びつきの視点から捉え、問題の発展と解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に用いている。 (単元ごとには、上記学習のねらいの②)		情報社会とのかかわりについて考えながら、問題の発見・解決に向けて主体的に情報と情報技術を活用し、自ら評価し、改善しようとしている。 (単元ごとには、上記学習のねらいの③)
評価基準		定期考查や授業における製作物をもとに上記内容を達成したかを評価する。			定期考查や実力考查、レポートなどをもとに上記内容を達成したかを評価する。		問題演習への取組、グループ活動をもとに上記内容を達成したかを評価する。
		A: 十分満足できる B: 概ね満足できる C: 努力を要する			A: 十分満足できる B: 概ね満足できる C: 努力を要する		A: 十分満足できる B: 概ね満足できる C: 努力を要する
学習の手引き		中学校では技術・家庭の一部であった「情報」は高校では必修科目であり、大学入試の教科にもなります。高度な情報社会を生きるみなさんにとっては、技術の習得、知識の習得だけが目標ではありません。どう情報を集めて、選択し、分析するか、それにより課題を解決するかという、「情報の活用能力」が大きな目標の一つです。 コンピュータの活用はもちろんですが、人と人との話し合いも大事です。積極的な態度で授業に臨んでください。今までにない教科なので、戸惑うかもしれません。わからないことは小さなことでも遠慮なく質問しましょう。 教科書がすべてではありません。目まぐるしく変わる情報社会に対応すべく、最新情報をニュースで確認しましょう。					

教科名	科目名	単位数	履修形態	授業形態	履修年次	教科書(発行所)	副教材・発展学習教材(発行所)
学校設定科目	探究基礎	2	全	一斉	1	—	探究のトビラのプリント (鹿児島中央高等学校)

目標	身近な事象に関心や探究心を高め、科学的な視点から疑問や課題を発見できる能力を身につける。理科(物理・化学・生物・地学)を行うために必要な基礎的な知識・技能の修得に努めるとともに、目的意識をもって観察・実験などを行うことで、課題解決につながる情報を主体的に収集・判断・表現・処理・創造し、状況を踏まえて発信・伝達できる能力を育成する。						
学習計画	学習時期	学習内容		学習のねらい			考查等
	4月	探究活動について ・探究活動の目的・合意形成 ・ICT機器の使い方		・探究活動の意味を理解し、これからの活動に必要となる基本的な知識・技術を身に付ける。 ・Google Classroomの設定を行い、作成するファイルの共有の方法を学ぶ。			到達度テスト① 到達度テスト② 到達度テスト③
	5～6月	データの処理 ・表計算ソフトの使い方 ・データ分析 ・アンケートの取り方		・表計算ソフトを使って、研究で得られたデータの数値処理を行う能力を身に付ける。 ・t検定、カイ二乗検定、回帰分析を理解し、データの活用方法を学ぶ。 ・アンケートの採り方やを身に付ける。			
	7～9月	科学的な考え方 ・論理的な思考 ・生成AIについて		・演繹法や帰納法を用いて、科学的・論理的に物事を捉える能力を身に付ける。 ・生成AIについて、使ってもよい場面、使ってはいけない場面に対する理解を深め、プロンプトについて実習を行う。			
	10～12月	発表の方法 ・アンケートの回答分析 ・クラス内プレゼン発表会		・アンケートの回答結果を分析し、自分たちの仮説が検証されたかどうかを確かめる。 ・アンケート分析のプレゼンテーションを行う。			レポート提出 スライド提出 プレゼン発表
	1月～3月	5つの実験 ・クラス内プレゼン発表会		・物・化・生・地・環の5分野の実験を行い、「実験計画」、「実験」、「考察・まとめ」という研究の流れを身に付ける。 ・実験結果について、プレゼンテーションを行う。			レポート提出 スライド提出 プレゼン発表
		ループリック評価		・ループリック表に基づき自己評価を行う			
定期考查	出題方針	実施せず					
実力考查	出題方針	実施せず					
観点別評価	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度		
	・課題研究に必要な科学的な知識や技能を身につける。		・科学的な視点から疑問や課題を発見できる能力を身につける。 ・課題研究に必要な情報を主体的に収集・分析・考察し、発信・伝達する能力を身につける。		・目的意識を持って観察・実験を行う。 ・周りとのコミュニケーションを取りながら考察を深めようとする。		
	3つの観点について それぞれ次のA～C で評価する		A 十分満足できる B 概ね満足できる C 努力を要する		① 授業への取組 ② 課題へのプレゼン発表 ③ 実験などのレポート提出		* ①～③を総合的に判断する
学習の手引き	3年間の科学的な探究活動(探究I, II, III)の基礎になる科目です。2年生から始まる理科(物理・化学・生物・地学)の基本的な「知識」と「技術」を身に付けておく必要があります。他の人に頼らず自分の力で学習活動が進められる力をつけましょう。物事に積極的に取り組む姿勢が評価される科目であると考えてください。						

教科名	科目名	単位数	履修形態	授業形態	履修年次	教科書(発行所)	副教材・発展学習教材(発行所)
学校設定科目	探究 I	1	全	一斉	1	—	探究のトビラのプリント (鹿児島中央高等学校)

目標	「探究のいろは」を用いて課題研究の基礎を学び、課題決定から発表まで問題解決のプロセスを学ぶ。前期には「学問探究」に係るポスターセッションにより研究発表を行う。後期には課題研究テーマおよび研究班の設定を行い、クラスや文理の枠を超えて探究活動を行う。						
学習計画	学習時期	学習内容	学習のねらい			考查等	
	4～6月	課題研究に対する知識の獲得 ・探究講演会 ・論文の構成 ・探究班の班編成	・探究活動とは、探究活動の進め方について理解を深める。 ・論文内での「序論」「本論」「まとめ」について理解し、探究活動における研究の目的、先行研究の必要性、研究の手法の必要性を学ぶ。			レポート提出	
	7～9月	課題研究テーマ設定 ・エネルギー講演会 ・学年交流会(2・3年) ・最終報告会への参加	・学年交流会を通して探究テーマの設定方法、最終報告会を通して探究の流れや発表を聞く中で、自分たちが何を題材として探究を行うかを考える。 ・3年生による最終報告会に参加し、プレゼンテーションに必要なスキルを学ぶ。			レポート提出	
	10～11月	課題探究テーマの設定 ・1年生合同オリエンテーション ・探究テーマの設定 ・先行研究調査 ・探究計画書の作成 ・科学講演会	・合同オリエンテーションを通じて、課題研究テーマ設定の流れを理解する。 ・探究のテーマを設定し、先行研究を調査する中で、探究活動の目的、研究の手法を計画する。 ・探究計画書を作成する中で、研究手順・研究内容を具現化する。			レポート提出	
	11～12月	探究計画審査会に向けての準備 ・審査会用スライドの作成 ・探究計画審査会	・専門機関(大学など)を審査員に招き、自分たちの行う探究計画を発表し、助言指導を受ける。			スライド提出 発表	
1～3月	探究活動に向けての準備 ・探究計画書の修正 ・予算書の作成	・探究計画審査会でのアドバイスをもとに、探究計画書を修正し、予算書とともに提出する。			計画書提出 予算書提出		
定期考查	出題方針	実施せず					
実力考查	出題方針	実施せず					
観点別評価	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度				
	・身近な事象に関心や探究心を高め、科学的な視点から疑問や課題を主体的に発見できる能力を身に付ける。	・課題解決につながる情報を主体的に収集し、協働的な活動を進めつつ判断・表現・創造する能力を身に付ける。	・グループ内での多様な考えを受容・共感し、まとめた内容を効果的に発信・伝達しようとする。				
3つの観点についてそれぞれ次のA～Cで評価する		A 十分満足できる B 概ね満足できる C 努力を要する	① 授業への取組 ② 課題へのプレゼン発表 ③ 探究計画書・予算書の作成		*①～③を総合的に判断する		
学習の手引き	3年間の探究活動(探究I・II・III)の基礎になる教科です。2年生から始まる「課題研究」の基本的な「知識」と「技術」を身に付けておく必要があります。他の人に頼らず自分の力で研究が進められる力をつけましょう。物事に積極的に取り組む姿勢が評価される科目であると考えてください。						